THE JAPAN EXCHANGE AND TEACHING PROGRAMME

JETからの手紙

「教える」ということ ― 奉仕への呼びかけ

長崎県長崎市教育委員会教育課　外国語指導助手
Sher Pauline Palola-Valenzuela（シェル ポリン パロラ バレンズエラ）

運命の発見

大学４年生の時、卒業要件に小学校１・２年生を対象に１カ月間英語を教えるというものがあり、子どもたちにアルファベットを教えたり、英語の歌を一緒に歌ったりしました。その１カ月後、英語教師としての自分の運命が決まったのでした。

外国語指導助手（ALT）として来日する前は、フィリピンで教師を７年間務め、インドやスリランカ、タイ、さらにはさまざまなアフリカ諸国からの学生などを教えていました。自作の教材を活用することで、その学生たちの不安が和らぎ、自信がついていく様子を見守りました。最終的な課題として、学生たちは各母国の独特な文化の紹介を中心とするスピーチを行い、学期末までに、学生から教師までの全員が文化的感受性の理解を深め、多様性を受け入れる力を高めていました。

地域レベルでの草の根の国際化を推進するJETプログラムの目的を踏まえ、境界のない社会を作ることを目指して、フィリピンと日本の有意義な懸け橋になりたいと願い、JETプログラムに応募しました。

フィリピンからの「Mabuhay」

2022年の真夏に、ALTとして長崎市に着任しました。その日はとても蒸し暑かったですが、それよりも私を迎えてくれた人々の温かさに感動しました。勤務先の学校でも皆が心から歓迎してくださり、すぐに居心地の良さを感じました。

英語の授業では、フィリピンを紹介するためにあらゆる機会を活用しています。例えば、フィリピンのあいさつ「Mano po（マノ・ポ）」の作法を生徒たちに教えました。「Mano po」とは、年下の人が年長者の手を額に当てて、敬意を表すことです。また、地域のつながりの結束と協力の心を指す「Bayanihan（バヤニハン）」というフィリピン語での美しい言葉も生徒たちに教えました。

英語の授業でフィリピンを紹介する様子

このように、生徒たちにとって英語の授業とは、英語力を上達させる道だけではなく、「Mabuhay（マブハイ）」(注) という気持ちを込めて自国と異なる文化を学ぶ機会にもなっています。

（注）「Mabuhay」とは、タガログ語で「万歳」「ようこそ」や「乾杯」という意味を持っている好意の挨拶

教室から街へ

多様な文化が息づいている長崎市に配属されたことを幸運に思っています。鎖国時代に唯一海外と交流した地として、歴史的建造物や、活気のある祭り、文化と伝統の融合を祝う料理などに、文化交流を受け入れる術を身につけてきたことがはっきりと表れています。

長崎市国際課は、2025年１月に開催した「2025年ながさき異文化ちゃんぽんフェスタ」のJETブースの

2025 年ながさき異文化ちゃんぽんフェスタで在大阪フィリピン共和国総領事館観光部からのチラシやパンフレットを提供

運営ボランティアを募集しました。当日は、カナダ、インド、アメリカ、オーストラリア出身の他の ALT ４人とともに、自分の出身地のフィリピンを含め、それぞれの母国のさまざまな写真を飾ったブースを設置しました。多くの人々と出会い、違いはあれど、他文化への関心と敬意によってフェスタの参加者とつながっていることを実感しました。

また、長崎市には豊かなキリスト教の歴史もあります。カトリックのフィリピン人コミュニティーも長崎市で見つけることができ、懐かしさを感じました。

2025 年ながさき異文化ちゃんぽんフェスタでボランティアした ALT たち

長崎市の文化に誇りを持つ

長崎市では、多様な国々から集まった ALT たちが、自らの経験や技能、文化や伝統を教室で共有し、生徒たちの視野と世界観を広げたいという共通の願いで結ばれています。開催するイベントなどを通じて、生徒たちにも自分の文化に誇りを持つことができるように促したいと考えています。

「長崎くんち」
(写真：Eddxer Valenzuela（エドクサー バレンズエラ))

毎年夏には、長崎歴史文化博物館で中学生対象の特別イベント「あじさいグローバルリーダーシップミーティング（AGLM)」を開催しています。このイベントでは、生徒たちが２～３人の ALT とグループを組み、１日だけのツアーガイドとして活動する体験をします。生徒たちは長崎県の豊かな文化を学びながら、実用的かつ魅力的に英語を学び、実践しています。

日本での経験のおかげで、教育という自分の生きがいをさらに理解することができました。教えることは、人に対して行うことができる最も利他的で意義深い行為の１つだと確信しています。今後は、世界のどこにいても、教育者として従事し続けたいと願っています。

プロフィール

Sher Pauline Palola-Valenzuela
（シェル ポリン パロラ バレンズエラ）
沿岸地域であるフィリピンのパンガシナン州出身。来日前は、大学教師を２年間、また、公立学校教員を５年間務める。子どもへの教育に情熱を持っており、幼児教育学の修士号取得を目指している。教育や文化交流を通じてフィリピンと日本の絆を深めたいと望んでいる。